

経験者採用

入省者インタビューvol.10 (技術/電気・電子)

仕事の「効率化」「最適化」を目指す。

主な経歴

- ▶ 航空宇宙業界で10年ほど勤務。
- ▶ プロジェクトの終わるタイミングで、新たなスキルアップを求めて、国土交通省に入省。
- ▶ 休日は犬と猫と戯れて過ごしています。

●令和3年4月 中部地方整備局 採用

◇令和3年4月～令和5年3月
豊橋河川事務所 調査課 電気通信係長

◇令和5年4月～現在
新丸山ダム工事事務所 工務第二課 機電係長



村山 悟さん
【採用4年目】

転職理由と、中部地方整備局に決めた理由

航空宇宙業界ではプロジェクトエンジニア、計装エンジニアと多様な経験をさせていただきました。入社から8年くらい経ったところから、プロジェクトの切れ目に転職をしようと考えはじめ、令和2年度にそのタイミングが来たため、転職活動を開始しました。様々な業種の中で国土交通省を選んだ理由としては、やはり私は電気や通信が好きで、これまでの経験とは違った角度で電気や通信を扱えることが決め手となりました。

仕事の感想と、入省して良かった点

現在は、「新丸山ダム工事事務所 工務第二課」に所属しており、新丸山ダム建設に向けた、電気通信設備の設計業務や発注業務を行っています。これまでの電気通信の知識を活かしつつ、ダムに必要な電気通信設備の考え方について学んでいる環境です。まだまだ分からないことがたくさんありますが、上司がいつも丁寧に教えてくれるため、入省後不安に感じたことはありません。

入省して良かった点としては、電気や通信と言っても業種によっても扱う装置が異なるため、新たな知識、経験が身につけられる点です。また、有給取得やフレックスタイム使用による働きやすい環境を自身で作り出すことができる点も良かったです。



中途入省だからわかる職場の雰囲気・カルチャー

私の部署は何でも相談できる職場で、働きやすい環境です。上司もプライベート面でも相談に乗ってくれたりワークライフバランスを考慮してくれたり働きやすい環境を考えてくれます。

ただ、組織規模が大きい故に、民間と比べると改善提案に対する改善措置がなかなか進まず歯がゆい部分もありますが、我々のような中途入省者でしかわからないことを提案していき、よりよい環境作りに貢献できればと思っています。

入省を考えている方、特に電気通信関係の方は、民間の殺伐した感じとは異なりアットホームな環境で是非おすすめです。

経験者採用

入省者インタビューvol.11 (技術/電気・電子)

新しい経験と、自分の成長を実感できる。

主な経歴

- ▶ 専門学校卒業後SEとして8年半ほど勤務。
- ▶ その後国立大学にて事務職として勤務を経て、国土交通省に入省。
- ▶ 最近は、近所の川での川遊びにハマっています。

●令和5年1月 中部地方整備局 採用

◇令和5年1月～現在
多治見砂防国道事務所 工務第二課 電気通信係長



関 康詞さん
【採用2年目】

転職理由と、中部地方整備局に決めた理由

専門学校を卒業し、システムエンジニアとして地元の企業で働いていました。そこでは、簡単なパソコンの修理からネットワーク機器やサーバの設定等、技術的な仕事をしていました。その後、国立大学に転職しましたが、大学のシステム（主にユーザーの認証システム）等、自分が携わった事のないシステムに関わりたかったものの、希望していた業務に就くことが叶いませんでした。

国土交通省への転職を決めたのは、自分のこれまでの経験を活かせることと新たな経験を積むことが出来ると考えたからです。これまでの職務では電気関係の業務に携わる事はありませんでしたが、また新たに学ぶ機会を得られたことに喜びを感じています。

仕事の感想と、入省して良かった点

現在は、電気通信係長として管内に設置してある電気通信機器の管理を行っています。特にこの職務では、発電機から現場に設置してあるCCTVカメラ、拠点間を結ぶ光ネットワーク機器からデジタル無線まで馴染みのある機器や、今まで触った事のない機器まで幅広く関わっています。

多治見砂防国道事務所では、「砂防」と「道路」の2つの業務があり、「道路」には温度計やカメラなどが設置されていますが、「砂防」ではワイヤーセンサや振動センサといった土石流を検知する機器を管理しています。求められる知識は幅広く、まだまだ学ぶことが沢山あることに喜びを感じています。



中途入省だからわかる職場の雰囲気・カルチャー

電気通信の職種は事務所内での人数が少ないですが、多くの部署と連携して動く必要がありますので、コミュニケーションを図る機会は多々あります。独自のシステムなどで戸惑うこともありましたが、黙々と仕事をするだけでなく積極的に周りの人と会話していくことが大切です。

中途採用職員も増えてきており、定期的に座談会を開いて貰えるのでそういう機会を大切に不安なことなどは同期の職員と話す機会もあります。